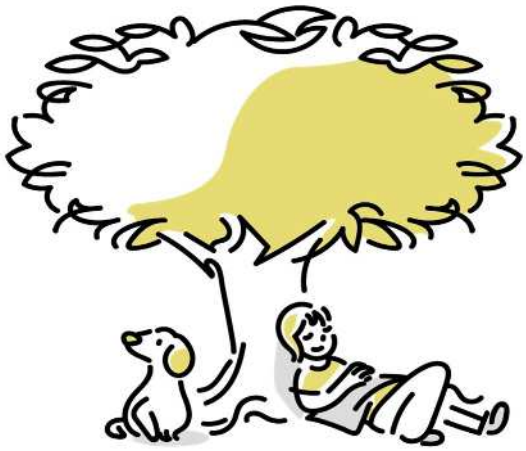
長期入院療養中の高校生の学習継続に関するガイドブック



- 関係機関の連携
- 入院療養中の学習継続
- 入院療養中の学習支援
- 同時双方向型授業配信
- 配信機材と配信方法
- 体験談～配信授業が育んだもの～
- 高校生学習会
- 参考資料

京都市立桃陽総合支援学校

京都市教育委員会

文部科学省委託「高等学校段階の病気療養中等の生徒に対する ICT を活用した遠隔教育の調査研究事業」

はじめに

高校生時代は、先生や友だちとの出会いを通して、人間としての在り方や生き方を考え模索する大切な時期です。入院療養中などで登校できなくてもクラスメイトと学習が続けられる環境を整えることは、成長発達の面からも大切であり、在籍する高校とつながり続けることは、入院療養する高校生の心理的な支援に有効です。本ガイドブックは、がん等で入院療養することとなった高校生が、治療と高校生活を両立させるための支援について、高校生と保護者の方々、高校生が在籍する高等学校の教職員の方々、治療に当たる医療従事者の方々に向けて、病弱特別支援学校のセンター的機能の活用を中心に、どのような相談場所があるか、どのような支援が必要か、支援を進めるためには、どのような連携を図っていく必要があるか等についてまとめました。

○教育制度の見直しについて

入院中の高校生に対する教育保障は全国的に課題となっており、平成 25 年度に実施された文部科学省の調査において、長期入院する高校生の約 7 割が、入院中に学習支援を何ら受けられていない実態が明らかになっています。

そうした中、教育支援が受けられ、出席・単位認定ができるよう、制度の見直しによる要件緩和等が進んできています。

・平成 27 年	[学校教育法施行規則改正]	遠隔教育の制度化
・令和元年	[文部科学省通知]	受信側の教員の配置要件の緩和
・令和 2 年	[学校教育法施行規則改正]	同時双方向型授業の単位修得数上限緩和

本ガイドブックでご紹介する、桃陽総合支援学校のセンター的機能を活用した「教育相談」や「医教連携のコーディネート」の取組が、入院療養する高校生の学習継続の一助となり、その支援に取り組まれる皆様の資料として参考になれば幸いです。

関係機関の連携

医教連携コーディネーター

― 特別支援教育コーディネーター(医教連携担当) ―

入院療養する高校生の学習支援を進めるとき、医療側と高校側が情報を共有し、生徒や保護者の願いに寄り添い、連携を図ることが必要です。また、入院療養する高校生の、学校や学習に関する相談については、教育関係者が担当することが有効です。

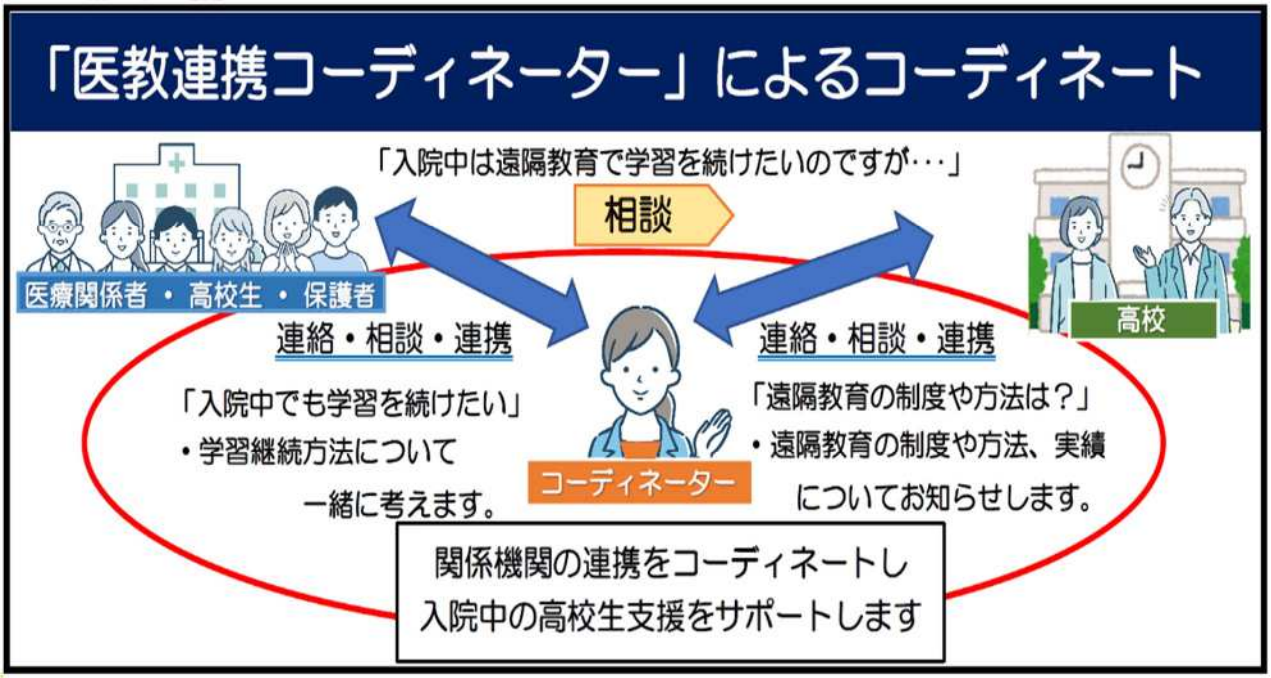
○特別支援学校のセンター的機能の活用

高等部の設置がない桃陽総合支援学校では、入院中の高校生の学習支援について、在籍校からの支援を基本としながら、桃陽総合支援学校の分教室が設置されている２つの小児がん拠点病院（京都大学医学部附属病院、京都府立医科大学附属病院）を中心に、桃陽総合支援学校の地域支援の一環（センター的機能）として支援を行い、医療と高校の連携を進めてきました。

○医教連携コーディネーターの配置

桃陽総合支援学校の教員が「医教連携コーディネーター（※）」として、「相談や情報提供の窓口の役割」「ケースカンファレンスのコーディネート」等を担うことにより、関係機関による連携体制の構築が進みました。

※桃陽総合支援学校では特別支援教育コーディネーターに医教連携の役割付けをしています。



入院療養中の学習継続

高校生・保護者の皆さまへ

病気の診断！突然の入院！

進級できるのかな・・・

学校どうしよう・・・

卒業できるのかな・・・

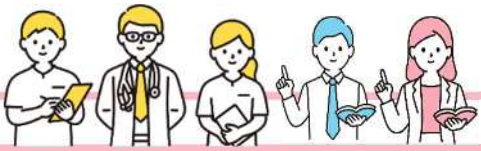
長期間の入院治療を受けることになった場合

まず「入院期間中の治療と学習の両立は可能か」主治医の先生に確認をしましょう。学習継続の許可が下りたら、高校の先生に状況を伝え、学習継続の支援について相談しましょう。その他、何か不安なことがあれば、病院の相談担当の方や、桃陽総合支援学校に相談してください。

Q：入院中の学習支援について高校の先生にお願いするとき、どのような内容を、どのように伝えればよいでしょう。
また、実際に学習支援を受けるために何か手続きがあるのでしょうか。

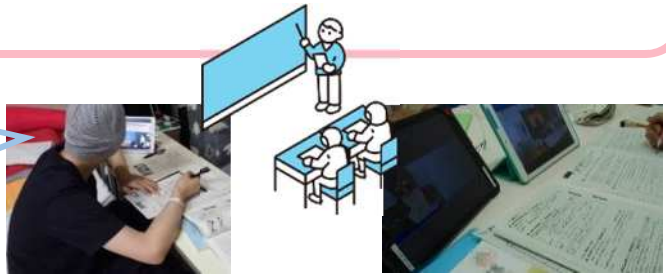
A：次のような内容を主治医に確認し、高校に伝えるとよいでしょう。

〇診断名　　〇治療方法
〇治療期間、入院期間
〇退院時期と自宅療養期間、復学時期
〇入院中の学習継続は可能か



学習支援を受けるために決められた手続きはありません。学習支援を開始するにあたり、**主治医と高校の先生との間で、学習計画や治療計画について、情報共有していただくことが有効です。**遠隔教育では、病院側でのサポートが必要な場合もあります。医教連携コーディネーターや医療ソーシャルワーカーに相談しながら進めるとよいでしょう。

入院していても一人じゃなかった。クラスメイトがいた。



Q：病室で受ける配信授業はどのような授業ですか？
提出物はどうやって出すのですか？
定期考査は受けられるのですか？
体調が悪い時はどうすればよいですか？
気を付けることなどありますか？

A：クラスの授業を病室で視聴する同時双方向型の配信授業の事例があります。

〇出席確認や先生からの質問に答えたり、クラスメイトとの意見交換等、双方向の授業に参加して出席が認められます。
〇提出物などは、「郵送で高校に送る」「PDF で高校に送信する」などの方法があります。高校の先生に相談するとよいでしょう。
〇高校によって異なりますが、定期考査も遠隔教育と同様に、クラスとつないで実施する方法もあります。行事予定などは、主治医の先生や看護師さんに知らせ、治療や検査の予定と重なっていないか確認をしておきましょう。

☝ 具体的な方法はＰ９「定期考査実施例」参照

【気を付けること】
◈治療や検査の予定は高校の先生と共有し、授業視聴の予定を立てましょう。
◈体調が悪く、授業を受けられない日等の連絡方法を、学校の先生と相談しておきましょう。

Q：高校受験合格直後に入院となりました。
配信授業を受けられますか？

A：入学式から配信授業を始めた事例もあります。

入学前から早期に配信授業の希望を伝え、入学式から配信で高校生活を始めた高校生たちもいます。「配信授業を受けたから、クラスメイトとも顔見知りになっていて、安心して復学できた」と感想を述べています。

高校の制服を着て、配信で入学式に列席。学級では配信で、自己紹介もした

配信授業を受ける高校生の様子

いったん授業の場所から離れる場合は、自分の状況をカードにして提示

入院療養中の学習支援

高等学校の先生方へ

クラスの生徒が突然入院！
長期の入院になるらしい…

欠席日数が心配…

入院中に勉強はできるのだろうか？

なんとか支えたい…

生徒から長期入院療養の学習継続について相談があった場合

入院療養中の学習支援は、保護者などを通じて、主治医と連携を図ることで進めることができます。やさしさから、「病気の時は治療に専念してください。学校のことは気にしなくて大丈夫ですよ。」と言葉をかけられた高校生の中には、「留年」「退学」などの不安を抱き「自分の学校生活は終わった…」と感じた生徒もいるようです。しかし、治療を優先しつつも、学校や友人とつながり続けることは、病気を克服するうえでも大変意義があることです。**教育は治療のエネルギーです。**

配信授業で学習を続けた生徒の感想

入院が長かったのですが、先生や友だちが配信授業でいつも応援してくれました。ひとりで録画授業とか見て勉強するのは僕には合わなかったと思います。クラスのみんなと一緒に勉強したから、僕は勉強が続けられたと思います。うれしかった思い出のひとつは、体育の時間、僕に配信してくださっているタブレットにボールがあたった時の先生の一言。「お前ら～！（僕の名前）を守らんかい！」僕はとてもうれしかったです。先生、クラスのみんなありがとう。

配信授業を実施した高校から

まずは治療が第一で、あまり負担をかけるべきではないのでは…という思いもあったが、学校と繋がることが病気を克服する上で非常に大きな支えになるのだと知った。また、この取組は教職員やサポートする生徒、学校全体に好影響を与えていると感じた。学校全体が優しくなった。　（公立高校）

クラスメイトの支援
移動教室への移動や
教室での機材設営

実習で作成した成果物
をロイロノートで相互
評価している様子

退院の見込みが卒業の時期だったので、入試を受けられるか不安でした。主治医様とのカンファレンスで、治療計画を入試日程に合わせるなど配慮をしていただけました。定期テストでも関係各所にご協力いただき、生徒は無事に卒業、進学することができました。ありがとうございました。　（私立高校）

高校からよくある質問

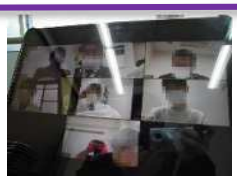
Q：入院中の学習支援が可能かどうか、また病院の様子や治療の状況を知りたいのですが、どうすればよいのでしょう？

A：入院治療中の学習支援は、医療と教育の連携の中で進みます。高校から主治医への連絡は保護者を通じて依頼するのがよいでしょう。保護者の了解を得て、医教連携コーディネーターや医療ソーシャルワーカーに相談をされる場合もあります。

【医教連携コーディネーターが提案するケースカンファレンス】

桃陽総合支援学校では入院時や復学時、また必要に応じて医教連携コーディネーターが病院と学校とのカンファレンスを提案し、オンラインでケースカンファレンスをコーディネートしています。医教連携コーディネーターが主治医と高校の日程調整を行います。

オンラインケースカンファレンスの様子



医療関係者、高校、保護者をつないだオンラインケースカンファレンス

高校と主治医をつないだケースカンファレンス

Q：病院での学習場所について

A：自分の病室や病院から提供された部屋などで授業を受けます。病室が個室でない場合、ヘッドセットをつけて授業を受けます。個別の学習室が必要な場合、病棟にお願いして、個室を準備していただく場合もありますが、必ずできるわけではありません。

Q：一日に何時間程度の授業を配信できるのですか？

A：入院中は、治療内容と体調によっては、１時間目から最後まで、授業を受けることが可能な時期があります。授業中であっても、途中で治療が入り、授業を抜けることもあります。生徒や主治医と相談して、無理なく続けられる学習計画を立てるとよいでしょう。

Q：レポート課題の出題と提出方法

A：病室でもできる課題は生徒に届け、後日、保護者を通じて郵送などで提出されます。

Q：実技教科はどのように取り組まれていますか？

A：授業見学後のレポートを後日提出させるなどで対応されています。

配信によるピアノレッスン

体育の授業配信

当該生徒の支援について、校内、保護者、関係機関等で情報を共有するためのツールとして、「個別の教育支援計画」を作成することが効果的です。作成の際には、校内の特別支援教育コーディネーターや特別支援学校のコーディネーターにぜひ相談してください。

入院療養中の学習支援

医療関係者の皆さまへ

教育は治療のエネルギー！

治療を離れ、仲間や先生と勉強する時間は、大きな心の支えになります。

入院中の子どもたちの成長発達を考えるとき、教育関係者との連携が大切です。

入院療養となった高校生から、「学校生活を続けたい」と相談を受けた場合

桃陽総合支援学校が取り組んできた入院療養中の学習支援は、長期入院する高校生と一番身近で接する医療関係者の方々の「学習を続けさせてあげたい」という強い願いのもと、２つの小児がん拠点病院「京都大学医学部附属病院」「京都府立医科大学附属病院」と高等学校との連携の中で進めることができました。入院療養する高校生の学習支援については、医療機関と高等学校の連携協力が不可欠です。

医療機関と教育機関との連携の一例

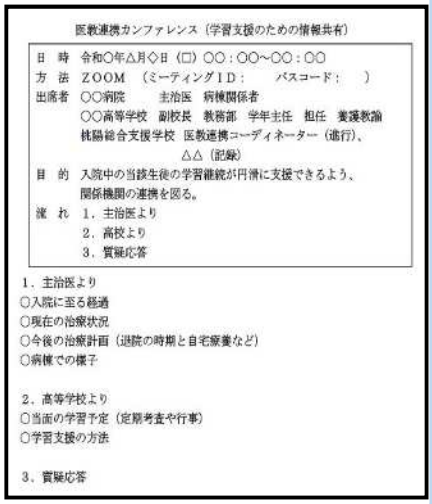
入学式から始まる配信授業に向けて、医療関係者と学校関係者が一堂に会しケースカンファレンスを行っている。高校の担任団はオンラインで出席している。

医療関係者とコーディネーターの連携

〇高校生の入院情報があった場合、電子メールか電話で情報を共有する。
〇保護者・本人の教育相談については医教連携コーディネーターが受ける。
〇今後の治療計画など、学習支援に必要な情報が共有できるよう、医教連携コーディネーターが、医療関係者と高校（必要な場合保護者）の日程調整を図る。
〇カンファレンスでの情報共有にあたり、医師か学校側が保護者と生徒に了解いただくようコーディネーターが依頼する。
〇学習に関わる治療の相談などが高校からあった場合、主治医に連絡をし、必要であればオンラインでつなぐ。

ケースカンファレンスの流れ（例）

〇コーディネーターより　目的説明
〇主治医より　項目に沿った説明
　入院時（治療計画、退院時期、自宅療養期間、登校時期等）
　退院時（今後の治療計画、登校予定日、最初の登校時間、清掃活動、体育、動物との接触、食事、等）
〇高校より　質問



医教連携カンファレンス（学習支援のための情報共有）

日　時　令和〇年△月◇日（□）〇〇：〇〇～〇〇：〇〇
方　法　ZOOM　（ミーティングID：　　パスコード：　）
出席者　〇〇病院　　主治医　病棟関係者
　　〇〇高等学校　副校長　教務部　学年主任　担任　養護教諭
　　桃陽総合支援学校　医教連携コーディネーター（進行）、
　　△△（記録）
目　的　入院中の当該生徒の学習継続が円滑に支援できるよう、
　　関係機関の連携を図る。
流　れ　1．主治医より
　　2．高校より
　　3．質疑応答

1．主治医より
〇入院に至る経過
〇現在の治療状況
〇今後の治療計画（退院の時期と自宅療養など）
〇病棟での様子

2．高等学校より
〇当面の学習予定（定期考査や行事）
〇学習支援の方法

3．質疑応答

ケースカンファレンス時のレジメ
（コーディネーターが作成）

医療関係者と学校の情報共有は高等学校が配信授業に取り組むうえでの安心感につながります。

病院側の支援・連携の例

○学習室の提供

病室が個室ではない場合や、定期考査で個別の学習室が必要な場合に、面談室や会議室を高校生に提供。

○生徒への連絡

治療で病室を直接訪問できない場合、高校からの伝言を伝える。

○教材の回収

病室に訪問できない場合、教材の配付や回収を協力。

○カンファレンス

入院・退院時、高校からの問い合わせ時など、治療計画や病状について、保護者に了解をとり、高校との情報共有を図る。

支援事例

同時双方向授業でなかったため、授業視聴の確認を病棟看護師が出席簿にサインで協力。

小児科のお医者様より

同時双方向遠隔教育の導入前は、病気療養を必要とする高校生は、勉強を一人で行う必要があり、ともすれば目標を見失ってしまい、病院での時間を持て余してしまう様子が見受けられました。しかし、遠隔教育導入後は、病気療養しながらでもクラスメイトと一緒に勉強し、高校生として過ごすことができるようになり、治療にも前向きに取り組めるようになりました。治療と勉強を両立しながら、遠隔授業を受ける高校生たちには本当に頭が下がる思いです。「高校生としての自分」をあきらめずに治療を受けられる環境が整備されたことを大変喜ばしく思います。

私はちょうど５年前、卒業を間近に控えた時期に病気がわかり、急遽入院することになった高校３年生の男性を受け持ちました。抗がん剤治療と放射線治療のため約３か月間入院する必要があり、桃陽総合支援学校と彼の所属する学校の先生方のご協力を得て配信授業を受けることができました。

治療は副作用も強く大変つらいものでしたが、授業を通じて学校の友人とつながることでエネルギーをもらえたせいか、弱音を吐くことなく治療を完遂できました。その後彼は無事卒業し、すぐに就職することができました。そしてついに今年、素晴らしい伴侶を得ることができ、逆境を乗り越えて順風満帆な人生を送っています。

高校生の学業支援は素晴らしい試みであり、今後もこのような活動を徐々に拡大していただきたいと切に願います。

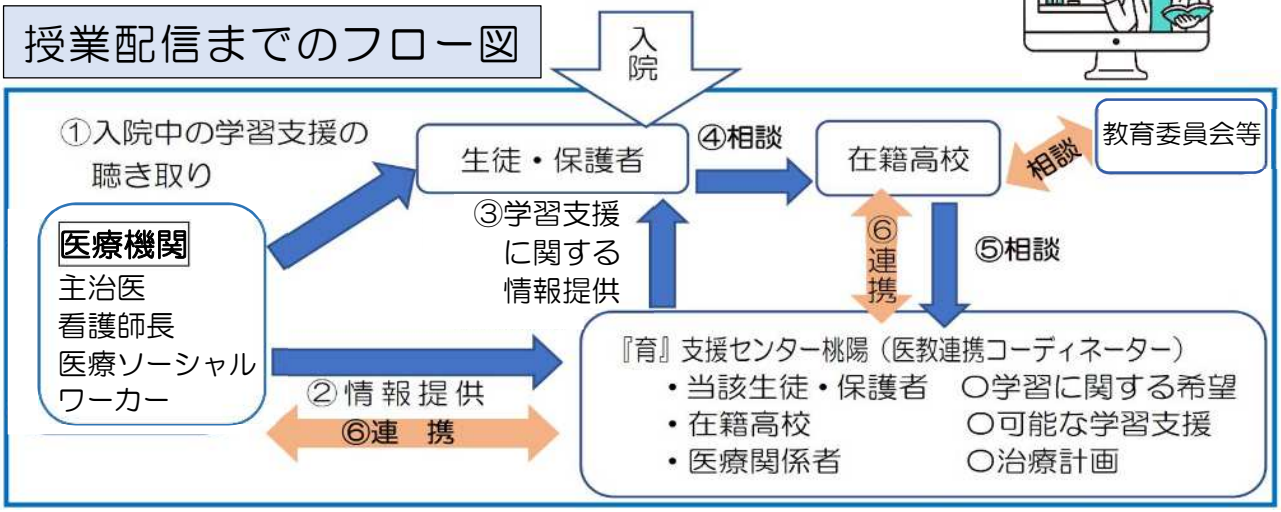
院内学級による小中学生への学習支援に比べ、高校生への学習支援は遅れているのが実情でした。医教連携コーディネーターによる在籍高校との連携により、遠隔授業さらには単位認定が可能となったことは実に大きな前進です。遠隔とはいえ、同級生とともに授業や試験をうけ、進級、進学していくことは、長い治療の中にあって大きな励みとなっていることは医療者側へもひしひしと伝わってきます。また、そのような患者さんを目の当たりにすることは医療者にとっても大きな喜びとなっています。

今後、全ての高校生へ、スムーズな学習支援がなされるよう、サポートを続けていきたいと考えています。

同時双方向型授業配信

配　信　ま　で　の　流　れ

授業配信までのフロー図



高校での教職員への周知理解

同時双方向型配信授業開始までの校内手順の一例

○相談窓口担当（保護者、教育委員会、関係機関）：教頭

○校内会議の流れ

（１）部長会議：実施要項の確認

（２）教科担当者会議：教科担当者への説明、依頼、質疑応答等

（３）教頭、担任が病院訪問：機材の設置、打ち合わせ等

（４）試行：教科担当者による試行、実施するうえでの課題等を検討
　　試行期間に、ホームルームや部活動の生徒への説明、協力依頼

（５）職員会議：全教職員に確認

（６）配信授業開始

定期考査実施例

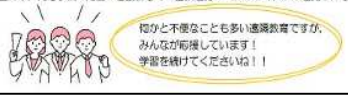
同時双方向型配信授業の方法を活用。高校の監督で定期考査を実施。医教連携コーディネーターが、以下の流れを作成、関係者と共有。高校が前日までに PDF で問題を医教連携コーディネーターに送る。医教連携コーディネーターが試験当日に答案を PDF にし、高校に送信した上で、テスト最終日に全ての答案を送る。

○○君　中間考査　時間割と流れ

定期考査は同時双方向型配信授業と同じ形で受けます。テスト監督はクラス監督の先生です。テスト監督の先生に自分の様子（手元等）が映るように工夫しましょう。訂正等もクラスに来られた教科の先生の指示に従います。板書で示された時など「見えにくい」「わかりにくい」場合は「先生！」と声をかけて聞きましょう。

	○月○日( )	△月△日( )	□月□日( )	☆月☆日( )
SHR	○毎日 8:30 には高校とつなぎ先生とやりとりし、配信状況を確認しましょう。 ○自分の手元等が映るようにタブレットの置き方を工夫しましょう。 ○桃陽職員より問題の入った封筒が届きます。 ○１時限目のテストだけ，机上に置きましょう。 ○クラス監督の先生の「開始」の合図で封筒を開け始めましょう。			
1限目 8:45~9:35	英文講読	コ英Ⅱ	数学Ⅱ	現代文
	○監督の先生の「終了」の合図で鉛筆をおき解答用紙だけ封筒に入れましょう。 ○２時限目のテスト問題を机に置きましょう。 ○クラス監督の先生の「開始」の合図で封筒を開け，始めましょう。			
2限目 9:50~10:40	世界史Ｂ	化学基礎	日本史Ａ	化学基礎
	○監督の先生の「終了」の合図で鉛筆をおき解答用紙だけ封筒に入れましょう。 ○テスト終了後は桃陽職員が封筒を回収に回いますので待っていてください。 ○３時限目がある場合はテスト問題を机に置きましょう。 ○クラス監督の先生の「開始」の合図で封筒を開け始めましょう。			
3限目 10:55~11:45			英文講読	

○答案用紙は毎日，医教連携コーディネーターから高等学校へ送信します。
○考査全日程終了後，全ての答案用紙を高等学校へ届けます。
○定期考査では，高等学校の先生・看護師さん・医教連携コーディネーターが連携して応援します



月日・桃陽担当	○月○日（ ）○○T	△月△日（ ）△△T	□月□４日（ ）□□T	☆月☆☆日（ ）☆☆T
テスト前日	・概ね１５時頃までに，問題と解答用紙が高校よりＰＤＦファイルで医教 CO に送信。 ・確認後，院内学級で，高校からの指示に応じた印刷。１教科ずつ封筒に入れる。 ・院内学級で保管。			
ＳＨＲ：８：４０ ～８：５０	１、クラスと Teams を繋いで通信の確認（高校⇔生徒） ２、高校生支援担当者より当日分の問題を届ける。 ３、テストは高等学校側の指示で開始（開封）し終了（封入）する。（高校側より開始・終了の指示） 「問題を開封して準備してください」等の声掛けがあるとよい。			
１限：９：００ ～９：５０	数学Ⅱ	現代文Ｂ	コミュ英Ⅱ	化学基礎
	【テストの流れ】（院内学級教員はテスト開始時に問題を届け，テスト終了時に回収に行きます。） ４、高校より開始指示。「テストを始めてください」等の声掛けがあると良い 生　徒：テスト開始。 高校側：訂正などがあった場合は配信機材に音声が届くよう， また板書があった場合，画面を配信する等の注意 生　徒：質問があれば授業同様にオンラインで質問する。 ５，高校より終了指示。「終了してください。解答用紙を封筒に入れてください」等の声掛けがあるとよい 生徒は解答用紙のみ封筒に入れる。 ６，桃陽の担当教員が訪室。回答の回収と次のテストを届ける。 ７，生　徒：高校の指示があるまで開封しない。			
２限：１０：０５ ～１０：５５	保健	数Ａ	古典	家庭基礎
	【テストの流れ】で進める			
３限：１１：１０ ～１２：００		情報処理	世界史Ａ	ＳＨＲ　１１：０５～
	【テストの流れ】で進める ◎解答用紙送信について　○院内学級教員（ＰＤＦ送信）　→　医教 CO　→　高校担当 ○解答用紙は院内学級で保管。最終日午後に簡易書留で高校へ郵送。			

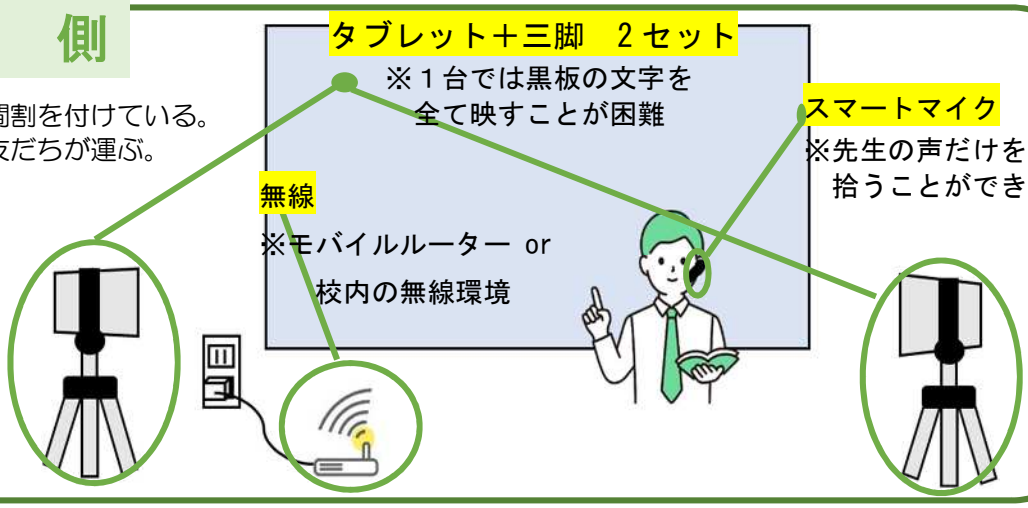
配信機材と配信方法

機 材 と 設 置 の 一 例

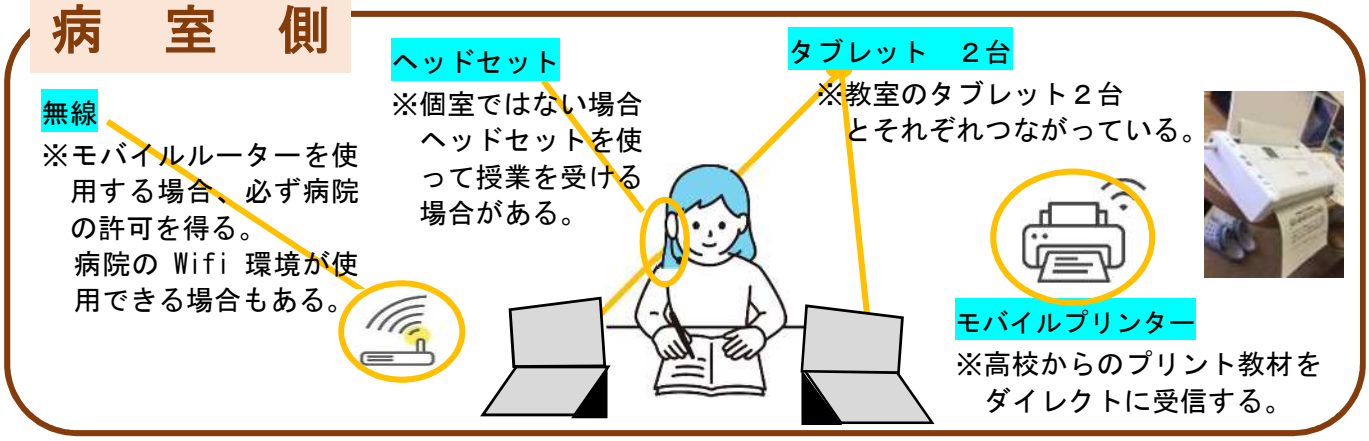
配信では Zoom、Teams、Whereby といった、無料アプリを利用して、配信しています。テレポーテーションアバターロボットなども活用しています。

教　室　側

タブレットに時間割を付けている。
移動教室時には友だちが運ぶ。



病　室　側



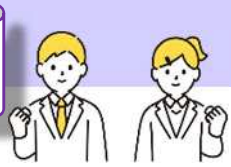
テ レ ロ ボ

～ 体 験 談 ～

自分のアバターロボットの左右が気になって kubi(※)を動かすと、クラスメイトが手を振ってくれたり話しかけてくれたりして、自分も顔は出さないけど、スタンプで手を振り返す等、コミュニケーションを取るきっかけになっている。kubi を使っている間は教室をかなり身近に感じられる。

(※) タブレット端末とつなぐことで、左右に 300°上下に 90°自由自在に稼働する、ビデオコミュニケーションツールです。病室から生徒が操作できるため、自分の見たいところを見ることができ、教室を身近に感じることができます。

体験談～配信授業が育んだもの～



「これだけみんなのお世話になっているのに、勉強しないわけにいかないでしょ！」配信授業が育んだお互いを思いやる心

高校３年生の夏、突然の入院が決まった A さん。今は社会人として就職し、家庭を築いています。A さんは当時を振り返り次のように話します。「高校時代の友人は高校でしか作れません。そんなかけがえのない時間を病気という理不尽な理由で失うなんて、あまりにも辛いです。僕が配信授業を受けた頃は、簡単にできるものではなく、いろんな方の協力があってこそのものでした。難しい中で配信授業を実現させてくださった関係者の皆様に、改めて感謝しています。」A さんと奥さんが暮らす家には高校時代の友人がよく訪ねてくれているそうです。

入院療養当時、退院を控えた A さんに、「こんなに勉強する A さんを見たことがない」と高校の先生が話されました。A さんの返事は「これだけみんなのお世話になっているのに、勉強しないわけにいかないでしょ！」高校側の生徒には A さんを思いやる心が育まれていく様子を感じたと高校の先生は仰っていました。「配信授業を通して、仲間を支えようとする気持ち、支えてくれる仲間に感謝する気持ち、生徒たちにお互いを思いやる心を育む様子を感じた」高校の先生の感想です。

「１年生２回やってもいいから高校に行きたい！」配信される学校の様子を参観し、復学への希望を強くしたＢさん

院内受験で進学したＢさんは、当時必要だった「病院側に当該高校の教員を配置する」という配信授業の具体的要件を満たすことができず、留年を決意していました。留年を決意した B さんに、高校から学習支援の相談を受けた「育」支援センター桃陽では「復学につながる支援」を提案しました。一度も登校したことがないＢさんに高校からは「登校時の学校の様子」「校舎見学」「文化祭」「体育祭」など学校生活の様子が配信されました。病室側では桃陽が視聴の支援に入りました。１年間の留年を決心していたＢさんですが、退院が近づいたある日、「１年生２回やってもいいから、高校に行ってみたい」と病棟師長さんに気持ちを伝えました。配信により学校の様子を身近に感じたことでＢさんは、復学への安心感と期待を抱くことができたようです。退院前のカンファレンスでＢさんは「クラスメイトと自己紹介をしあいたい」と希望を伝えました。クラスメイトや担任の先生と「よろしく！」と手をふって自己紹介をしあうＢさん。退院後Ｂさんは登校。２回目の１年生も元気に登校をしているようです。

「みんなと一緒だから勉強が続けられた。」「同時配信の授業だったから規則正しい毎日が過ごせた」入院生活と受験を支えた配信授業

私立高校に在籍する２年生のＣさんは、同時双方向型の配信授業を希望しましたが、当時必要だった「病院側に当該高校の教員を配置する」という具体的要件を満たすことができず、実現しませんでした。

私立高校の先生たちと「育」支援センター桃陽で相談を進め、「授業を録画しながら、配信もしてはどうだろう」と考え、同時一方向での授業配信が始まりました。オンデマンド形式なので、録画授業の視聴も選択肢にあったのですが、Ｃさんは、学校の時間割に合わせて授業を視聴することを毎日続けました。クラスメイトのみんなと同じように勉強しているということで、心が支えられ、「みんなと同じように授業を受けることで生活リズムが整った」とＣさんは振り返ります。３年生の冬に退院となったＣさんは、復学後すぐにあった定期考査にも、配信授業のおかげで自信をもって受験することができました。

「クラスメイトとして同じ時間を過ごしてほしい」入学式の担任の講話は、クラスメイトと入院中のＤさんの心をつないだ

院内受験で進学したＤさんの配信授業は入学式から始まりました。Ｄさんは高校の先生に「入院生活中も友達とつながっていたい」という気持ちを伝えていました。その思いに応えることができるように、高校の担任の先生は、体育祭や文化祭などの行事はもちろん、ホームルームや特別活動の時間にも、リモートでＤさんが参加できるよう工夫をしました。担任の先生は入学式で、「入院している生徒も、クラスのみんなも、クラスメイトとして同じ時間を共有してほしい」と話しました。友達も移動教室の時間には、「Ｄさん、一緒に行こう」と配信授業用のタブレットを運んでくれました。Ｄさんは友だちと話していると、治療に向かう勇気が湧いてきたそうです。退院後、初めて登校した日。クラスメイトは花束を用意し迎えてくれました。「みんなの『おかえり！』という声が何より嬉しかった」そう話すＤさんは入院中もつながりを持ち続けることで、治療を乗り越え、安心して復学することができました。

「入院していても社会から取り残されず、クラスメイトと同じように頑張れば、頑張っただけ評価してもらえました。それが生きる自信につながりました」配信授業が支えたＥさんの高校生として生きる自信

中学生の頃から入退院を繰り返していたＥさん。原籍中学校に戻った時、教室に入れる免疫力がなく、別室でひとりで自習する毎日は不安で辛い毎日だったと話します。Ｅさんは、その病状から、高校進学後も入退院を繰り返すこととなります。入院療養中には同時双方向型配信授業の制度の見直しや改正が進み、入退院を繰り返すＥさんも途切れることなく授業を受けられるようになりました。クラスメイトと同じように授業に参加し定期考査を受け課題に取り組んだＥさんを見守り支えてきたお母さんは、「配信授業を受けて出席が認められるようになり、息子はずいぶん前向きになりました。高校生としてあたりまえのことが実現することが、生きていく自信につながっていました」と当時を振り返ります。大学進学が希望だったＥさんは、今後の治療の状況も前向きに考え、高校の先生と相談を重ね志望校を決めました。「僕はみんなと一緒だから勉強できた。ひとりで配信を見ているだけだったら、ここまで勉強は続けることができなかった。クラスメイトや先生に感謝しています。病気でも、勉強したい、進学したいと願う高校生が、平等に勉強できる環境がもっと整ってほしい」Ｅさんの願いです。

高校生学習会

特別支援学校（病弱）のセンター的機能を活用した高校生学習会

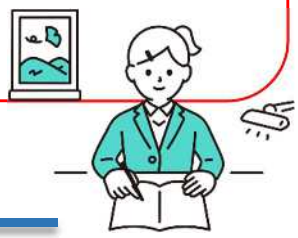
高等部の設置がない桃陽総合支援学校では、センター的機能の地域支援に位置づけ、高校生学習会を開催しています。配信授業が進まなかった時期、病院から提供された学習室や、放課後の分教室を使った「高校生学習会」に参加した高校生たちは、自学自習や、入院する高校生同士の交流に参加していました。

高校生たちは学習サポーターとしての大学生のボランティアと交流する時間は、楽しく、学習会のある日が楽しみだったと感想を述べています。

学習会への参加が進路展望につながったＦさん

成人病棟に入院していた高校３年生のＦさんのまわりには、同世代の患者さんはいませんでした。病院内に掲示してあった「高校生学習会」のポスターを見たＦさんは、学習室を訪ね、学習会に参加することにしました。

病棟では一人でしたから、大学生のお姉さんと一緒に勉強したりする時間はとても楽しみで、励みになりました。早く退院して、勉強を頑張ろうと目標ができました。進学先を決める時、ボランティアのお姉さんと同じ大学に行きたいと思いました。



退院して地元に帰ったＦさんは受験勉強を頑張り、ボランティアと同じ大学に合格。大学生となったＦさんは、「次は自分が同じような思いを抱えた高校生の支えになりたい」と、学生ボランティアに参加し、入院する高校生との交流を続けています。

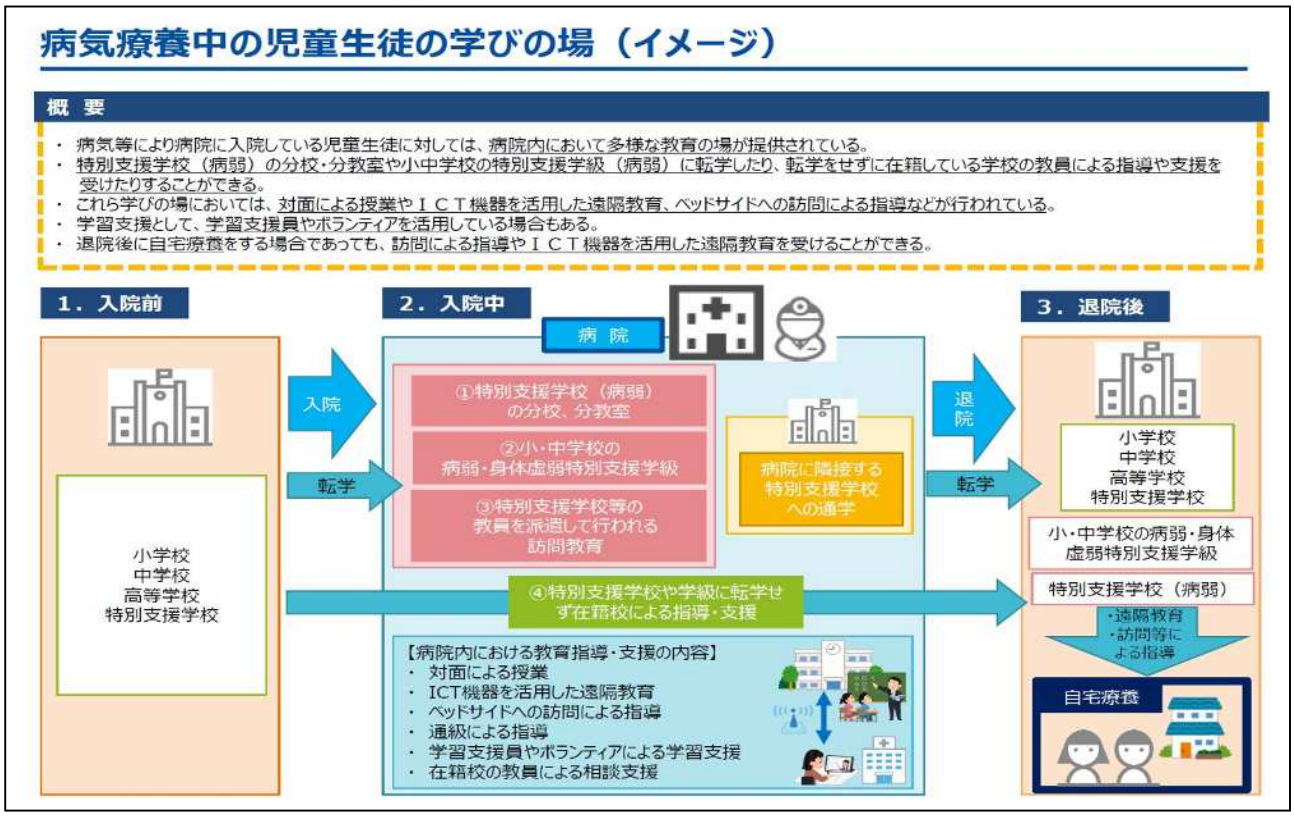
地元から離れた病院で勉強するＧさんへの学習サポートチーム

通信制高校に通うＧさんは、地元を離れ、他府県の病院で治療を受けることになりました。普段、授業配信はなく勉強は自分ですることが多いＧさんは、「数学のわからないところを質問できないかな」と思い、「育」支援センター桃陽に相談をしました。「育」支援センター桃陽では、数学の得意な大学生のチームを結成し、オンラインでの学習相談会を開きました。

Ｇさんの質問に、大学生も丁寧にレポートで模範解答を示しました。「わからないところの質問ができることもうれしいけれど、大学生とオンラインででもお話しできることが楽しかった。」高校生の感想です。

オンライン学習会で高校生の質問に、パワーポイントを使って大学生ボランティアが説明

参　考　資　料



（文部科学省 HP「高等学校段階の病気療養中等の生徒に対する ICT を活用した遠隔教育の調査研究事業」掲載資料より）

以下のメディア等で、当校の入院療養中の高校生の学習支援について紹介されています。

- 2018 年（平成 30 年）２月 26 日　夕刊読売新聞
- 2018 年（平成 30 年）11 月 19 日　朝日新聞　いま子どもたちは
  （朝日新聞 DIGITAL　有料記事）
- 2020 年（令和２年）　２月４日　朝日新聞　がんとともに
  （朝日新聞 DIGITAL　有料記事）
- 2021 年（令和３年）　２月２日　朝日新聞　がんとともに
  （朝日新聞 DIGITAL　有料記事）
- 2021 年（令和３年）　２月 24 日　日本経済新聞　ライフサポート
  （NIKKEI STYLE　無料記事）
- 2022 年（令和４年）　４月 12 日～22 日　朝日新聞　患者を生きる
  （朝日新聞 DIGITAL　有料記事）

「育（はぐくみ）」支援センター桃陽

『育』支援センター桃陽は、病気やけがで入院している子、からだや心の不調を訴えて学校を休みがちな子どもたちを支えます。

◎主な事業内容

〇保護者、学校の教職員の方々からの相談に応じます。

・入院児童生徒の学習について　・不登校教育相談

・退院後の学習や生活

〇入院療養中の高校生の教育相談や学習支援に取り組んでいます。

入院療養しながら教育を受けられる

京都市立桃陽総合支援学校

本校・訪問教育	〒612-0833　京都市伏見区深草大亀谷岩山町４８－１ ＴＥＬ（０７５）６４１－２６３４㈹　ＦＡＸ（０７５）６４１－２６４８ http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/toyo-y/ Ｅメール　toyo-y@edu.city.kyoto.jp
国立医療センター分教室	〒612-8555　京都市伏見区深草向畑町１－１ （国立病院機構京都医療センター内） ＴＥＬ・ＦＡＸ（０７５）６４３－８４５０
京大病院分教室	〒606-8507　京都市左京区聖護院川原町５４ （京都大学医学部附属病院内） ＴＥＬ（０７５）７５１－４３６２　ＦＡＸ（０７５）７５１－４２７７
府立医大病院分教室	〒602-8566　京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町４６５ （京都府立医科大学附属病院内） ＴＥＬ・ＦＡＸ（０７５）２５１－５８７７
第二赤十字病院分教室	〒602-8026　京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町３５５－５ （京都第二赤十字病院内） ＴＥＬ（０７５）２１２－６１４５　ＦＡＸ（０７５）２１２－６１５７
京都市立病院分教室	〒604-8845　京都市中京区壬生東高田町１－２ （京都市立病院内） ＴＥＬ・ＦＡＸ（０７５）３１１－５３３３

発行日　令和５年３月